STAFF
の
ページ

よしこの　秋の　ファッション情報

いよいよ、おしゃれを楽しむ秋到来です。この春夏、たいへんご好評いただきましたPIEMONTEのリュックに新製品が加わりました。

通勤やご旅行にと、幅広く使っていただけるサイズです。リュックのいいところは、なんといっても両手が空くことと、左右均等に重さが分散されるので、身体にも無理がないってことです。また、両手が空くことで、歩行中も安全ですね。

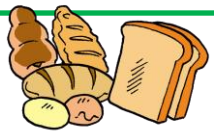
靴はいつもご好評いただいていますFinnamicシリーズに、トレンドの秋の白底スニーカータイプが登場しました。黒のソフトエナメルに白底がとってもカッコイイんです。白底の靴を秋に履く！これって、まさに「おしゃれ感」満載。もちろん夏も重い感じがしないから履けちゃう、一年中使える重宝な靴です。歩くことが楽しくなる靴と行動的なリュックを背負って紅葉狩りや秋色の街に出掛けませんか。

Finn Comfort Made in Germany

こだわりの品質。Made In Germany

PIEMONTE LUSSO TORINO ITALY Piemonte Lusso

STAFF Y



月曜日と木曜日は、カインドが「パン屋」になります！

カインドが「パン屋」に？？　以前から、カインドへは毎週「パン屋」さんが出張販売に来てくれています。月曜日は、「IZUMI の家」のパン、木曜日は、「いぐちさんち」のパン、どちらのパンもとってもおいしいので、是非、カインドのお客様にもお知らせしたいと思い、ご案内します。販売時間は短いですが、お時間が合えば、是非覗いてみてください。

月曜日　午前 11:30 頃から 10 分間くらい

Yui cafe IZUMI　IZUMI no IE いずみの家

「働くこと」を通じて自信をつけて、将来的に一般就労を目指したいという障害のある方たちが、１つ１つ丁寧に製造し、心を込めて販売しています。いずみの家のパンでお客様に笑顔を届けたい。そう願いながら毎日パン作りに励んでいます。

木曜日　午後 2:30 頃から 30 分間くらい

いぐちさんちのパン

前の日の夕方に仕込んで、10 時間寝かし、丹精込めて「いぐちさん」が丁寧に焼き上げています。身体に優しくとの思いで、原材料にもこだわっています。

●小麦粉：国産（自粉）　●水：南アルプスの天然水
●塩：海水を 365 日天日干ししてできた塩
●砂糖：赤紛　●卵：自然卵
●バター：よつ葉バター（北海道十勝産の生乳からできたバターです。）

カインドに「変なもの」出現！！

カインドに「変なもの」が出現しました！！

一見、普通のミシンのように見えますが・・・

よ～く見ると、ちょっと変！？

そうなんです、裁断された革を縫い合わせて、靴の甲の部分（甲革(アッパー)）を作るときに使う靴専用のミシンです。「製甲ミシン」って言います。よろしく！！m(. .)m

出来た甲革(アッパー)を、木型(ラスト)にはめて、底をつけます。そうすると１足の革靴が出来上がります。

革靴って、靴職人さんが１足１足思いを込めて丁寧に作ってくれています。大切に履かなきゃ罰(ばち)が当たりますね。

また、子供の足のお話をさせてもらいました。感謝！

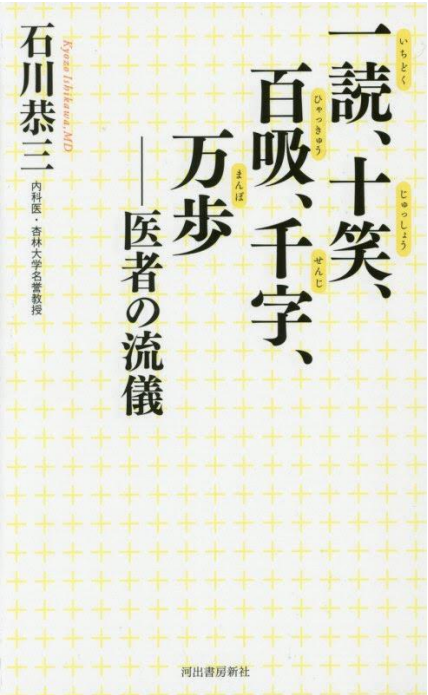
今度は、下条村で子供の足のお話をさせていただきました。今までも何度かお話しさせていただきましたが、今回もまたこのような機会をいただけて大変ありがたいと思います。

子供の足は大人の足のミニチュアだと思っている方が圧倒的に多いんですがそうではないってこと、皆さんにお伝え出来るいい機会だと思ってお話しさせていただいています。

子供に一番身近なお母さん方に知っていただきたいことです。限られた時間の中で、できるだけわかりやすいようにと思ってお話しさせていただきました。参加された方々は、皆さん熱心に聞いてくださいました。次回は、11 月に、又、お話しさせていただけます。ありがたいことです。

STAFF の ページ

おすすめ健康法　一読　十笑　百吸　千字　万歩



先日、図書館でとある情報雑誌を借りました。その中に 80 歳を過ぎてもなお現役医師でいらっしゃる石川恭三先生の提唱する「明るく前向きに生きる毎日習慣」が載っていました。読むと、なるほどと思える内容。しかも覚えやすい！ということでご紹介しますね。

一読（いちどく）１日１回文章を読む→活字に触れ己を磨く。認知症予防

十笑（じゅっしょう）１日 10 回大声で笑う→免疫機能強化

百吸（ひゃっきゅう）大きな深呼吸１日 10 深呼吸を 10 回→緊張ほぐす

千字（せんじ）１日千字の文字で書く→脳トレ。手は第二の脳

万歩（まんぽ）１日１万歩→健康な身体をそしてストレス解消。脚は第二の心臓

単調な毎日の生活の中に、「一読、十笑、百吸、千字、万歩」をうまく取り入れメリハリをつければ確かに体も心もいいんじゃないでしょうか。全てやりこなすことは大変ですが、考え方次第です。完璧にやろうとせず、目標値目指して少しずつやってみるもよし。また、この中の、2 つ、3 つでもやるのもよし。気軽にいきましょうよ。私の場合、十笑ならぬ十怒なら毎日クリアしているような、、、。猛省。

STAFF T

STAFF
の
ページ

ユニーの思い出

この９月にピアゴ飯田駅前店が閉店します。ピアゴ飯田駅前店は、1974 年(昭和49 年)4 月にユニーとしてオープンしました。その後店名をピアゴに転換していますが、私にとって馴染みの深さから言えばユニーです。

山村で育った私は、「飯田へ行く」というと、今でいう「東京へ行く」というレベルと同じ位、ワクワク感と緊張感がありました。

小学生の時、祖母が飯田の眼科医院に 10 日ほど入院したことがありました。祖母のお見舞いに兄と二人で電車で出かけました。祖母の付き添いをしていた祖父が、飯田駅で私たちの到着を待っていてくれました。お見舞いをした後、祖父が「ユニーへ連れて行ってやる。」と言ってくれたので、ドキドキワクワクしながら連れて行ってもらいました。そこで、「何でも好きなものを買ってやるよ。」と言われていたので、兄は何を買ってもらったかは忘れてしまいましたが、二番の兄は、この時用事があり一緒に来ることが出来なかったので、前もって聞いていたものを伝えました。

「あんちゃは、シャープペンシル(その当時シャープペンシルなるもの、出始めたばかりで、子供にとっては高価な文具でした。)が欲しいんだって！」と言うと祖父は、「おぅ、そうか。」と言って買ってくれました。たしか、700 円位したと思います。

私はと言えば、ユニーの中をあっちへ行きこっちへ行き何を買ってもらおうか散々迷った末に、「よりぬきサザエさん」を１冊買ってもらいました。

兄が、700 円も出してシャープペンシルを買ってもらったのだから、あの時「サザエさん」を責めて 2 冊買ってもらえばよかった・・・。と時々「サザエさん」を見ながら思い出したものでした。(苦笑い)

昭和40 年代～50 年代、飯田駅前も飯田線利用者で本当に賑わっていたと記憶しています。

ユニーに行けば何でもある☆彡憧れのユニーに出掛けることは、本当にワクワクして子供の私にとっては、魅力的な場所でした。そんな昭和の時代の思い出がまた一つ姿を消してしまうのはやはり寂しさを感じてしまいます。

時々ピアゴで閉店のお知らせを聞きながら買い物をしていると、ユニーの頃の楽しかった思い出を改めて思い返す今日この頃です。

STAFF K